

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 図書館報

vol. **63**

2026年6月30日

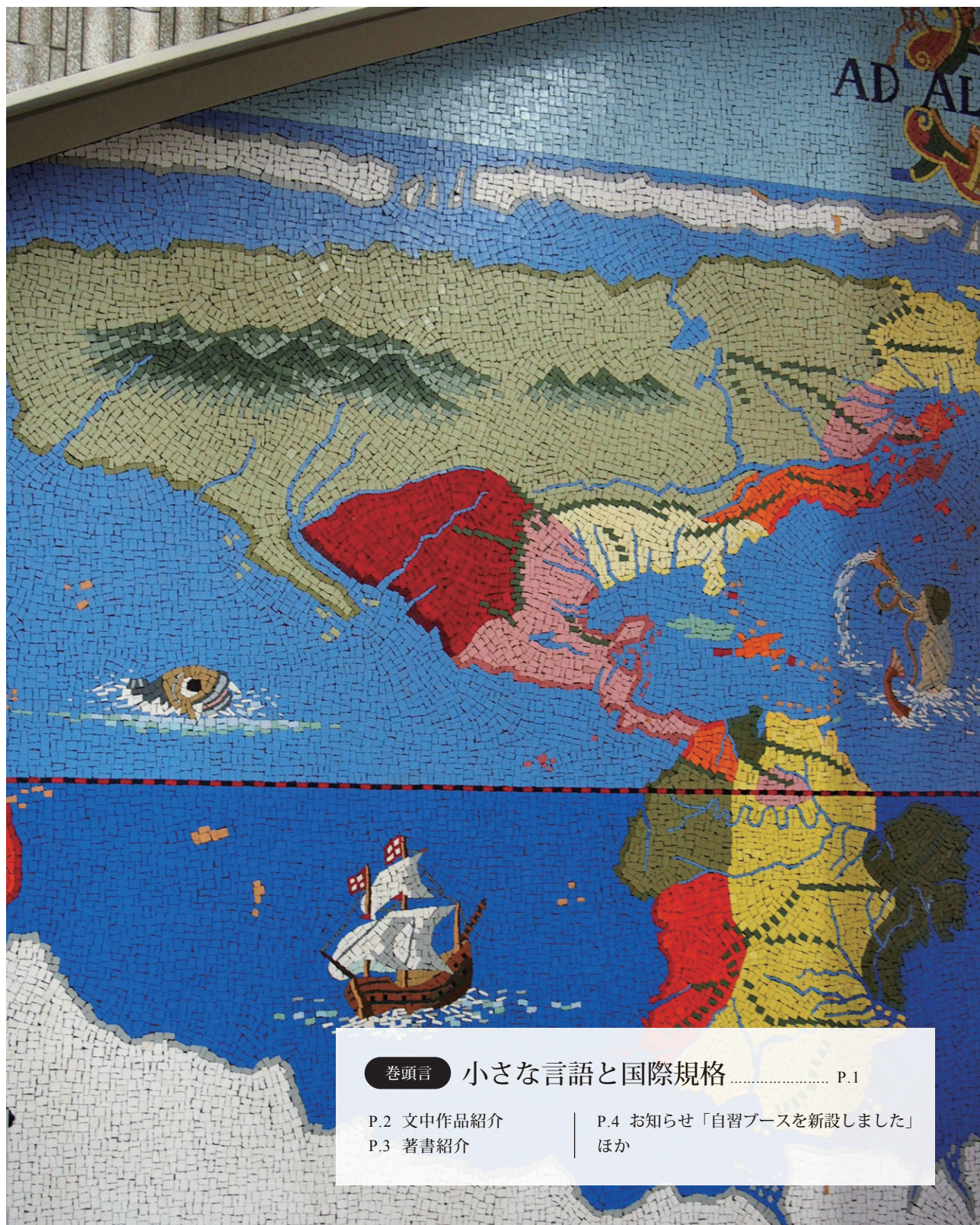
【編集・発行】

神戸市外国語大学

図書館



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センベル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



巻頭言 小さな言語と国際規格 P.1

P.2 文中作品紹介

P.3 著書紹介

P.4 お知らせ「自習ブースを新設しました」
ほか

小さな言語と国際規格

ロシア学科准教授 岡野 要

筆者が研究しているのは、ルシン人というスラヴ系民族の言語である。彼らの故郷はオーストリア＝ハンガリーの辺境地域にあったカルパチア・ルーシと呼ばれる地域で、ヨーゼフ・ロートの『ラデツキー行進曲』ⁱに描かれているように、さまざまな民族が共生する多民族・多言語空間であった。ルシン人は現在、世界中に約 170 万人いると（かなり多めに？）見積もられているが、居住地域がウクライナ、スロヴァキア、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、セルビア、クロアチア、チェコ、アメリカ合衆国、カナダなどにまたがっており、居住する国家において独自の民族と認定されていることもあれば、そうでないこともあり、正確な人口は分かっていない。アメリカのポップアートの代名詞的存在であるアンディ・ウォーホルⁱⁱや、スパイダーマンの作家として知られるステイヴ・ディッコは、いずれも両親がオーストリア＝ハンガリー帝国の辺境地域（現在のスロヴァキア領）にルーツを持つルシン人である。また、報道写真『硫黄島の星条旗』（1945 年）で知られる兵士の一人、マイケル・ストランクも、幼少期にチェコスロヴァキアからアメリカへ移住したルシン人である。こうして見てみると、さっきまであまり馴染みのなかったルシン人が、少しは身近に感じられるかもしれない。

ルシン語は少数言語であると同時に、危機言語でもある。『ユネスコ世界消滅危機言語地図』（2010 年）によれば、ウクライナ、スロヴァキア、ポーランド、ハンガリーを中心に話されるカルパチア・ルシン語は「脆弱」、セルビアおよびクロアチアで話されるパンノニア・ルシン語は「危険」と評価されている。もともとルシン人は一つの国家に暮らしていたが、20 世紀における国境線の変化によって複数の国家に分断され、現在のような状況が形成された。ルシン語は小規模の言語でありながら、標準語が整備さ

れているが、その歴史的背景から、複数の書きことばを持つ複中心的な言語である。具体的には、ウクライナのザカルパチア変種、スロヴァキアのプレシヨウ変種、ポーランドのレムコ変種、ハンガリーのハンガリー変種、そしてセルビアおよびクロアチアのヴォイヴォディナ変種の計 5 つの標準語が存在する。これらの標準語は、報道、教育、文学、宗教、学術といった領域において書き言葉として機能しており、多くの書籍が出版されている。

さて、ルシン語の書籍は図書館にも所蔵されているが、登録の際には国際規格 ISO 639 や MARC 言語コードによって分類される。パンノニア・ルシン語は 1923 年に最初の文法書が出版されて以降、標準化の過程を経ながら 100 年以上に渡り言語としての独立性を維持してきた。一方、カルパチア・ルシン語は共産主義体制下においてその使用が禁止されてきたが、1995 年に独立した言語であることを宣言しⁱⁱⁱ、標準語が整備された。しかしながら、ルシン語で書かれた書籍の言語は、図書館などの検索システムにおいて「スラヴ語派（その他）」(sla) または「ウクライナ語」(ukr) と登録されており、「ルシン語」の名称を見ることはない。この状況は、ルシン語が地域公用語の一つとされているセルビア共和国ヴォイヴォディナ自治州においても同様である。こうした背景から、2012 年にはカルパチアのルシン語 (Rusyn) が ISO 639-3 において rue として登録され、さらに 2022 年にはパンノニアのルシン語 (Ruthenian) が rsk として登録された。もっとも、これらの登録に至るまでには複数の試みがあった。2019 年には、既に登録されていたルシン語 (rue) を、パンノニア・ルシン語に対応する南ルシン語 (rju; South Rusyn) とカルパチア・ルシン語に対応する東ルシン語 (rse; Eastern Rusyn) に分割する申請が行われたが、これは正当な理由がないと却下され

た。この結果を受けて、パンノニア・ルシン語を独立したルシン語（Ruthenian）として登録する申請がなされたが、これも初回は認められていない。このように何度も ISO コード登録の申請が行われた背景には、この規格が持つ客観的分類としての権威により、ルシン語の独自性に説得力を持たせたいという意図があったと考えられる。

では現在、rue や rsk といったコードは、書籍の登録の際に実際に使用されているのだろうか。筆者の知る限りでは、セルビアで出版されているルシン語書籍は、これまで通り sla あるいは ukr として登録されている。新たに付与されたコードが実際の運用に反映されるまでには、時間を要するのだろう。この点はデジタル環境においても同様である。たとえば Windows の言語選択では、先に ISO コードを取得したカルパチア・ルシン語（rue）はすでに選

択可能となっているが、パンノニア・ルシン語（rsk）はまだサポートされていない。

近年、社会言語学において言語景観の研究が盛んに行われているが^{iv}、公共空間における複数言語の表示は、情報伝達という実践的な機能だけでなく、特定の言語の存在を可視化する象徴的な機能を持つことが指摘されている。ISO コードは言語を統一的基準で分類する国際規格であり、言語の独立性の認定やデジタルな公共空間における書きことばの使用の可能性を決める役割を担っている。この点では ISO コードも、看板や標識と同じように言語景観研究の対象とみなすことができる。ルシン語のような小さな言語にとって、国際規格による認定は自分たちの言語の独自性を客観的に認められることであり、アイデンティティを確認するという言語名の登録以上の意味を持つのである。

ⁱ ヨーゼフ・ロート（平田達治訳）『ラデツキー行進曲 上・下』岩波書店、2014 年

ⁱⁱ Magocsi, Robert P., and Ivan I. Pop, eds. 2002. *Encyclopedia of Rusyn History and Culture*. Toronto; Buffalo; London: University of Toronto Press, p. 504.

ⁱⁱⁱ Magocsi, Robert P., ed. 1996. *A New Slavic Language Is Born: The Rusyn Literary Language of Slovakia*. New York: Columbia University Press.

^{iv} 庄司博史、P.バックハウス、F.クルマス（編著）『日本の言語景観』三元社、2009 年



①セルビア共和国ヴォイヴォディナ自治州の州都ノヴィサドにある市庁舎の看板（上からセルビア語、ハンガリー語、スロヴァキア語、パンノニア・ルシン語で表記されている。）



②ウクライナのウジホロド市にあるルシン語書籍を扱う書店（カルパチア・ルシン語で表記されている。）

■ 文中紹介作品(図書館所蔵)

- ヨーゼフ・ロート著、平田達治訳、2014. 『ラデツキー行進曲』 上・下、岩波書店。（請求記号：上巻 N080=13=462-3, 下巻 N080=13=462-4）
- Paul Robert Magocsi, Ivan Pop, editors. 2002. *Encyclopedia of Rusyn History and Culture*. University of Toronto Press. （請求記号：N238=R=51）
- Paul Robert Magocsi, editors. 1996. *A New Slavic Language Is Born: The Rusyn Literary Language of Slovakia*. Columbia University Press.
- 庄司博史, P.バックハウス, F・クルマス編著、2009. 『日本の言語景観』 三元社。（請求記号：N801.03==399）



「食」から考える台湾の歴史と文化

中国学科准教授

川 浩二 (かわ こうじ)

「台湾朝食」「台湾の朝ごはん」を看板にかかげるお店が日本にもすこしずつ増えてきた。そこで食べられるのはクレープ風の「蛋餅 dànbing」、濃厚な豆乳に酢が入り、ほろほろとおぼろ豆腐のような「鹹豆漿 xiándòujiāng」、もち米おにぎり「飯糰 fàntuán」などだ。たしかに台北の小さな店で「鹹豆漿」をステンレスのレンゲですすっているといかにも台湾に来たなと思えるものだ。ところがこれらが台湾の朝食を代表するようになった歴史は、長く見つもっても一九五〇年代までしかさかのぼれない。豆乳と油条や焼餅は、一九四九年に国民党政府と百万人にも及ぶ移民とともにもたらされ、台湾に定着した朝食なのだ。

『味の台湾』は台湾を代表する現代詩人の一人、焦桐(1956-)が幼いころから現在まで、人生のおりふしに出会った食べものをエッセイにした作品だ。収録された「永和豆漿」には、台湾で豆乳が歩んだ道のりが個人史を交えて描かれている。焦桐が大学時代に同人雑誌の編集のため印刷工場に出入りし、夜中にすすっていた豆乳店から、やがて台湾全土をおおうチェーン店「永和豆漿」が生まれたのだった。

一方、台湾における伝統的な朝食の一つに「鹹粥 xiánzhōu」という米粒の姿を残すよう煮こんだ粥が挙げられる。台湾への移民のうち、前近代からもっとも多いのは福建省南部で、「鹹粥」はその食文化とつながるものだ。「鹹粥」には「虱目魚 shīmùyú」という魚が具として入れられることがある。「虱目魚」は中国語圏で他にこれほど食べる地域はなく、まさしく台湾を代表する養殖魚だ。あえて例えるならサバの青魚の香りを抜いて別の風味をつけたような味、とでも言おうか、脂がのって煎り焼きにしてもスープに仕立ててもよく、『味の台湾』でも「虱目魚」「鹹粥」

『味の台湾』

焦桐著/川浩二訳

みすず書房、

2021年10月発行

図書館所蔵：N596==222



『図説食からみる

台湾史：料理、 食材から調味料まで』

翁佳音、曹銘宗著/川浩二訳

原書房、2025年4月発行

図書館所蔵：N383.8==268



などいくつもの篇中にその名が見える。

「虱目魚」について『食からみる台湾史』を読むと、こんどは福建・広東からの移民が多かった清代よりもさらにさかのぼり、十七世紀のオランダ統治時代をも超えて、台湾のもっとも基層の文化にあたる、十六世紀以前の先住民族を含む「オーストロネシア語族文化圏」の時代から養殖技術が南シナ海や太平洋の広い地域で共有されていた可能性が示される。

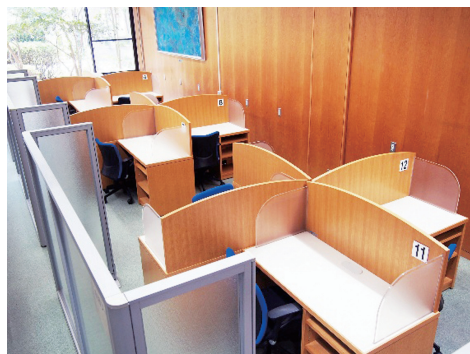
『食からみる台湾史』はマクロな視点で台湾の食文化の連続性をダイナミックに示し、『味の台湾』は個人の経験に基づくミクロな視点で具体的な変化や地域の差異をすくい上げる。また二冊ともに、台湾の現在を見る上で欠かせない日本統治時代の影響についてもしばしば取り上げられている。

台湾の歴史と文化については、単に「中国の一部」としてとらえることができないのはもちろんだが、逆に歴史的な連続性や属する文化圏から離れて「台湾は台湾」と独自性のみ強調するのも難しい。そこでまずは台湾の人々によってどのように語られているかを、いちばん身近な「食」から出発して読んでみることをおすすめしたい。台湾の屋台ごはんを食べるのと同じくらい何の準備もなく読み進められるうえ、読後は台湾の食を取り巻く風景が鮮やかにきめ細かくとらえられるようになるはずだ。

自習ブースを新設しました

図書館内の自習スペースを拡大するため、第一閲覧室に自習ブースを設けました。ほかの閲覧テーブルと同じように、事前の申し込みなどをせずに利用することができます。2025年度まで視聴覚ブースとして利用されていたスペースを自習ブースに変更することで生まれた、新たな学習スペースです。一人でじっくり課題に取り組みたいときに、ぜひご利用ください。DVDなどの視聴覚資料は、これまで通りカウンターへお申し込みの上、第二閲覧室視聴覚ブースにてご利用いただけます。

※今後の利用状況などを踏まえ、新たに利用ルール等を定める場合があります。



レファレンスサービスの御礼状をいただきました

レファレンスサービスは、図書館員が資料・情報の調査を支援するサービスです。信頼のおける各種の情報源を元に、調査を行います。日々、調査内容を国立国会図書館が運営するレファレンス協同データベースに登録している結果、年間登録数が選定基準を満たし、データベースの発展に寄与したとして、国立国会図書館長より御礼状をいただきました。



レファレンス協同データベースは2005年4月から本格的に事業を開始し、2008年から御礼状送付が始まりましたが、3年連続で令状授与を受けた公立大学図書館は神戸市外国語大学図書館のみとなります。2026年も対象館となるよう、レファレンスサービスの充実に努めます。

資料調査や、欲しい情報へのアクセス方法が分からない場合等、お気軽にメールでお問い合わせください。



図書館日誌

《 2026年1月～2026年6月 》

2026 年 1.25,2.1	日曜開館日 (後期定期試験期間のための臨時開館)
3.23-31	蔵書点検
3.16	国立国会図書館よりレファレンス協同データベース年間登録お礼状を受領
4.1	第一閲覧室自習ブース新設
4.8	JLPオリエンテーション
4.16-5.28	前期図書館利用ガイダンス実施
6.1	神戸市外国語大学80周年記念展示
6.9,10	トライやるウィーク (1校2名受入)

AD ALTIORA SEMPER vol.63

神戸市外国語大学図書館報 第63号

ISSN	0919-2336
編集・発行	神戸市外国語大学図書館 〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1 TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257 URL: https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日	2026年6月30日
発行責任者	図書館長 竹越 孝